



アフガニスタンは現在、再生の狭間でまがいています。それは23年間続いた戦争の結果です。今もアフガニスタンの南部では紛争が続いており、一歩間違えば再び混乱に陥る可能性もあります。

アフガン人一人ひとりの人生には常に戦争が存在しています。

私たちアフガン人は戦争が生んだ結果にしかすぎないのです。私は映画を通してこの国の人々だけでなく世界の人々に知ってもらいたいと思いました。アフガニスタンの悲劇の深さを。

人々の胸に秘められた悲しい思いを。振り返られることのない私たちの心の内を。この痛みを伝えられるのはアフガン人である我々自身だけなのです。

私は、主人公の少女を探して3400人の少女達と会いました。

ある日路上で一人の物乞いの女の子と出会いました。

「お恵みください」そう言った少女の目には深い悲しみが宿っていました。それがマリナでした。

撮影中マリナが涙を流す時、彼女はいつも戦争のことを考えていました。姉を亡くしたこと、戦争中父親の足が一時的に不自由になったこと、兄弟姉妹と空腹で夜を明かしたこと。

当初この映画のタイトルは『虹』でした。

アフガンに昔から言い伝えられる「虹をくぐれば自由になれる」という言い伝えからつけました。

映画は少女が虹をくぐり自由をつかむ場面で終わる予定でした。アフガン人は自由になるべきだ。

この映画にはそういうメッセージを込めていました。それは特に女性にとつてなかなか叶わない夢でした。女性達は解放されることを願いつづけてきたのです。

私は撮影が終わったラッシュプリントを何度もみてもう一度考えました。今のアフガニスタンに自由、そして希望はあるのか？アフガニスタンはこれからも悲劇が続くのか？

考えた結果、

虹のシーンはカットすることに決めました。

少女が虹をくぐり自由と希望に向かうラストシーンは、今はまだ描けないと思ったのです。

ラストは、アフガニスタンの悲劇が終わっていないことを伝えるシーンに替えました。

この映画の主人公の少女はアフガニスタンの悲劇そのもののなのです。

セディク・バルマク



少女は生き延びるため

少年になった

セディク・バルマク監督作品

アフガン 零年

2004年 ゴールデングローブ賞 外国語映画賞
2003年 カンヌ国際映画祭 カメラドール (新人監督作品) 特別賞

2003年/アフガニスタン-日本-アイルランド/383/カラー/82分/原題: OSAMA
製作: パルマク・フィルム、NHK、ルポロック・フレイザー・プロダクション 監督・脚本: セディク・バルマク
提供: アップリンク、ムヴィオラ、NHKエンタープライズ21 配給・宣伝: アップリンク、ムヴィオラ 配給協力: レナント・コミュニケーション
<http://www.uplink.co.jp>



MOVIOLA

NHKスペシャル「マリナ」アフガン少女の悲しみを撮る」NHKクロージングアップ現代「アフガン」アフガン少女の混乱と希望のはざままで」(監督出演)で、大反響を呼び起こしたアフガン映画、いよいよ劇場公開!!

復興アフガニスタン第1作

実話をもとに、胸揺さぶる物語が生まれた。

23年間にも及ぶ、長い戦争の続いたアフガニスタン。その最後の5年間にあたるタリバン時代には、映画を作ることも観ることも禁止されていました。セディク・バルマク監督は、タリバン台頭以前からアフガン映画界をリードするフィルムメーカーでしたが、戦火が激しさを増す中、難民としてパキスタンへ亡命。しかし、再び故国で映画を作りたいという夢をいだき続け、亡命中に読んだ「学校へ行く為に髪を切り、少年になったアフガンの少女」という新聞記事を元に脚本の執筆を開始。これが『アフガン零年』誕生の発端となったのです。

物乞いによって生き延びて来た少女：マリナの涙によって 変えられた 悲しみのラストシーン——

バルマク監督は製作にあたり、3,400人もの少女達に会ってオーディションを行いました。しかし主人公の少女は見つからず、途方に暮れていたある日、街で出会ったのがマリナ・ゴルバハリでした。彼女は、内戦で故郷を追われ、物乞いをして生計をたてていたのです。撮影当時この映画のタイトルは『虹』。監督は脚本通り、少女が希望の象徴である虹をくぐり、自由と希望に向かうラストシーンを撮影しました。しかし編集で、戦時下を思い出すたび涙の止まらなくなるマリナの姿を繰り返す映像の中に見た監督は、悩んだ末に虹のシーンを全てカットしたのです。「アフガニスタンの悲劇は今も終わっていない。今、虹を描くのは嘘になる」という監督の思いが込められた新しいラストシーンは、泣くことすら出来ないアフガンの悲しい現実を、痛いほど切実に物語っています。

言葉では語りつくせない映像力。 アフガンの思いは、カンヌ・日本・そして世界へ——

2004年 ゴールデングローブ賞 外国語映画賞

2003年 カンヌ国際映画祭 カメラドール(新人監督作品)特別賞

2003年 カンヌ国際映画祭 CICA賞・ジュニア審査員最優秀作品賞

2003年 ニューデリー映画祭 シネファン 最優秀女優賞/2003年 釜山国際映画祭 ニューカレンツ特別賞・観客賞

2003年 ロンドン映画祭 最優秀作品賞/2003年 バリャドリッド映画祭 最優秀作品賞

2003年 第5回NHKアジア・フィルム・フェスティバルで日本プレミア上映



【物語】

父や兄を戦争で失った12歳の少女は、祖母と母との三人で暮らしている。身内の男性を伴わず女性が外出することの出来ないタリバン政権下、少女の母親は少女の髪を切り、彼女を少年の姿に変えて働きに出すことを思い付く。少年となった少女は父の旧友のもとで働き始めるが、ある日街中の少年たちとともに宗教学校(マドラサ)へ連れて行かれてしまうことになる…。

監督・脚本：セディク・バルマク

プロデューサー：セディク・バルマク、上田信、ジュリー・ルブロック、ジュリア・フレイサー

出演：マリナ・ゴルバハリ、モハメド・アリフ・ヘラティ、ゾベイダ・サハール

製作：バルマク・フィルム、NHK、ルブロック・フレイサー・プロダクション

提供：アップリンク、ムヴィオラ、NHKエンタープライズ21 配給・宣伝：アップリンク、ムヴィオラ

www.uplink.co.jp

アフガン零年

『アフガン零年』特別プレミア上映会

4月14日(水) PM3:30開演

3:30 アフガンドキュメンタリー作品特別上映(無料)

5:00 トークショー 西垣敬子さん他(特別映像も上映)

6:30 『アフガン零年』プレミア上映(終演7:55)

会場：ドーンセンター

地下鉄有明線・京浜(有明)駅1番出口東へ tel.06-6910-8615

◎料金/右記と共通料金(ただし、3:30の回は無料)

5/1(土)よりGワールドショー!!

12:30 2:10 3:50 5:30 7:10 ※5/22(土)以降についてはお問合せ下さい。

〈トークショー実施〉◎5/1(土) 西垣敬子 さん(宝塚アフガニスタン友好協会代表)

(両日共2:10の回終了後) 5/8(土) 栗田慎一 さん(毎日新聞社会部記者)

特別共通鑑賞券1500円好評発売中!!

当日/一般1800円、学生1500円、高・中・小・シニア1000円

●『アフガン零年』トークサロン●

「アフガン零年」の世界を語り合おう!

5/1(土)PM3:50 ゲスト：西垣敬子さん

5/8(土)PM3:50 ゲスト：栗田慎一さん

※映画をご覧になった方のみ参加できます(先着順)

※会場近くの喫茶店で開催(ドリンク実費必要)

詳しくは、劇場までお問い合わせください。

地下鉄中央線「九条駅」6番出口徒歩3分

シネ・ヌーヴォ

TEL.06-6582-1416

地下鉄中央線 一本町

九条駅

大坂港

ブルト

マド

シネ・ヌーヴォ

バチン

大坂ドーム

http://terra.zone.ne.jp/cinenouveau/